下肢深在静脈血栓症に対するドプラー超音波診断

Doppler ultrasonography for detection of deep vein thrombosis in lower extremities.／Maryniak O. et al.: Arch. Phys. Med. Rehabil., **60**, 277-280, 1979.

【ドプラー超音波診断，下肢静脈血栓症】

ドプラー超音波測定により，下肢深在静脈血栓症を診断することは，測定技術に困難な問題が多く一般的でない．

この論文は，ドプラー超音波診断の原理を説明し，下肢深在静脈の血流に対する測定手技を詳細に述べ，測定結果の判定と記録用紙を掲載している．下肢深在静脈系の4カ所（両側で8カ所）を測定点とし，深吸吸・Valsalva 試験・測定点より末梢の圧迫・測定点より中枢部の圧迫解除によるドプラー現象の変化を判定した．また，静脈系の圧迫と解除による逆流現象の有無を観察した．

以上のドプラー超音波測定より，結果を，正常・不完全・血栓症と3段階で判定できた．

さらに，下肢静脈造影とドプラー超音波診断の判定を同一被検者50名について比較した．その結果，ドプラー超音波測定の特異性（正常な所見の一致率）は92％であり，感度（異常な所見の一致率）は100％であった．従って，ドプラー超音波測定は，正確なスクリーニングテストとして有効であった．　（横浜市大　佐鹿　博信）

早産児の錐体路屈曲徴候の発達について

Development of flexion pyramidal signs in preterm infants./ Ivan Lesnȳ, Miluše Proškova and Vaclav Mydlil: Develop. Med. Child. Neurol., **21**, 488-491, 1979.

【早産児，錐体路徴候，屈曲反応，
神経発達チェック】

早産児の神経学的発達チェック報告は少ない．著者らは42名の子供でのチェック結果をまとめた．女児22名，男児20名，出生時体重が800 g から2,000 g，また，在胎期間は25週から40週以内の例で試みた．42例中11名は胎内発育不全児（SFD）であった．

検査は各種のテストを行ったが，今回は錐体路屈曲徴候（flexion pyramidal sign＝FPS）の検査結果を報告する．FPS は成人より子供の方が検査し易い．

用いた手技は Rossolimo's sign で中足骨の基底部をハンマーで叩く．Mendel-Bechterew's sign は足背部で立方骨の背外側をハンマーで叩く．両者とも指の屈曲を反応として生ずる．

早（期）産児では，25週から36週（在胎）例で，指の外転と母指の伸展がみられ，36週以降生後12週までは，指の屈曲がみられた．12週以降の検査では，反応はみられなかった．

生後3カ月以降に著明な FPS がみられた場合，中枢神経系の発達異常か Spasticity（痙性）の存在を考える．　（東京女子医大　山形　恵子）

向精神剤の副作用の予防

How to minimize side effects of psychotropic drugs./ Hartford, J.T.: Geriatrics, **34**, 83-93, 1979.

【老齢，神経伝達物質，投薬】

脳機能が，シナプスにおけるカテコラミン系およびコリン系の神経伝達物質のバランスのもとに成立しているが，加齢とともに MAO は上昇するのにたいしドーパミン，ノルエピネフリンは下降してゆく．しかしアセチルコリン系はあまり変化がみられない．その結果，加齢とともに神経伝達物質にアンバランスが生じてくることになる．老人では後者の相対的増加が，抗コリン系薬剤を与えた場合の不整脈の頻発や，精神障害の原因になると思われる．

これらの副作用は老人性変化に蔽われて，みすごすことが多いので注意すべきである．

末梢性の初発症状として，口渇，汗の減少，低血圧などがあり，ついで眼症状，排尿障害などがあり，中枢症状として，精神不安定，失調症状，記銘力低下，ひどくなると見当識障害，幻想などが出現する．

老齢では，同年齢，同性に同量の薬剤を与えても血中濃度に差が大きいものなので，少量から投与し始めて徐徐に増量すべきである．　（七沢病院　福井　圀彦）

内頸動脈領域の TIA，脳梗塞の患者にたいする抗凝固療法施行中，および中止後の予後について

Prognosis in patients with infarction and TIA in carotid territory during and after anticoagulant therapy./Link, H. et al.: Stroke, **10**, 529-532, 1979.

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/10/06 06:51:38

【TIA，脳梗塞，抗凝固療法】

TIA 31例，脳梗塞86例に内頸動脈より脳血管写を行い，抗凝固療法の適応ありと認めた117例について平均11.1ヵ月間それを行った．

治療期間中は脳梗塞群の中の1例だけが，内頸動脈領域の別の場所に再発を起こしたが，その他は無事であった．その1例はヘパリンは使っていなかった例で，トロンボテストも39%までしか下っていない，治療不十分な例であった．

117例中41例は内膜切除術を受けたため除外し，残り76例について抗凝固療法中止後，平均4.4ヵ月間追跡した結果，10例の脳梗塞再発例を認めた．

一方，抗凝固療法が不適応とされた45例中，脳血管写に異常のなかった12例については16.5ヵ月，異常はあったが他の理由で不適応となった16例について25.9ヵ月間追跡を行った結果，前者に1例，後者に5例の梗塞再発がみられた．

抗凝固療法を行った例の中で，脳内出血など不可逆性の重大な事故を起こしたものはなく，従来の考えかたよりも抗凝固療法の適応範囲を拡げてもよさそうである．

（七沢病院　福井　圀彦）

健常若年者の等尺運動時の心血管反応

Cardiovascular response to isometric exercise in normal adolescents./Laird, W.P. et al.: Circulation, **59**, 651-654, 1979.

【運動負荷，手握り運動，心エコー】

32人の健常若年者（14～16歳）において submaximal isometric handgrip (IHG) exercise に対する心血管反応を調べた．方法は25% maximal IHG を4分間行わせ，その間に血圧，心エコー等の測定をした．この程度の exercise で充分有意の心拍数増加および血圧の変化があった．心エコーの結果左室径は exercise 時収縮期も拡張期も不変，従って stroke volume も不変であった．しかし分時拍出量は心拍数増加によって22%増加した．末梢血管抵抗には有意の変化がなかった．左室駆出指数，すなわち平均円周短縮速度（mVcf），収縮時間等は正常だった．これらの結果から，健常若年者の submaximal IHG exercise における心血管反応は成人のそれに相似しており，負荷テストとして有用であるといえる．

（七沢病院　中村　昭）

無視性錯書を伴う失行性失書

Apraxic agraphia with neglect-induced paragraphia./ Valenstein, E. et al.: Arch. Neurol., **36**, 506-508, 1979.

【失書，失行，半側無視】

失書は文字を書き表わすために必要な運動動作の記憶が失われたか，使用しえないことによって生じる可能性がある．このメカニズムが成り立つためには，まず言語障害がないことと，言語と運動領の間に何ら切断のないことが明らかにされねばならない．著者らは74歳の明らかな左利きの男性で，このような症例を経験した．

患者は神経系障害の既往は全くなく，突然の意識障害で発症した．回復に伴い，明かな運動麻痺はなく，一般的記憶記銘障害や失見当識は認められなかった．失語症はなかったが，両側性の失書が認められた．左手でタイプを打つ能力は保存されていたことから，右半球は言語性入力から切断されていないことが明らかにされた．さらにタイプ中に錯書的誤りが認められ，これは左側のキーボードにある文字であったことから，タイプを患者の右側に移動させたところ著しく改善した．CT スキャンでは頭頂葉後部に梗塞によると考えられる病変が認められた．

（東大　江藤　文夫）

2026/10/06 06:51:38